

モグラ目（食虫目）トガリネズミ科

カワネズミ

Chimarrogale platycephala (Temminck, 1842)

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵1

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

河川流域を住み場所としているため、護岸改修や水質汚染・汚濁等による生息環境の悪化によって、生息数と生息地の急速な減少が心配される。

【概要】

本州・四国・九州に分布。日本固有種。半水生生活で、溪流に面した石垣や岩礫の間等に巣を営み出産し、移動や捕食はおもに溪流を泳いで行う。水生昆虫やカエル、溪流魚などを捕食し、時に、ヤマメなどの養魚場に大きな被害を及ぼすことがある。

【県内での生息地域・生息環境】

かつては、隠岐諸島を除く県内各地の河川流域にふつうに生息していたが、河川改修などによって岸や川床までもがコンクリートで固められたり、餌となる小魚や水生昆虫が減少して、本種の生息数や生息地も減少している。

【存続を脅かす原因】

河川改修及び水質汚染と汚濁、河川周辺の森林環境の破壊。生息域の分断による個体群の孤立・狭小化。農業等化学物質の体内蓄積も懸念される。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○				○					○										

モグラ目（食虫目）モグラ科

コモグラ(西日本産小型アズマモグラ)

Mogera imaizumii Kuroda, 1957 (Small type)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

現在知られている県内での生息地点は3カ所。目撃や生息に関する情報はほとんどない。

【概要】

日本固有種。本州・四国に分布。中国地方では広島県と山口県にも生息。近年は、コモグラという亜種を認めないでアズマモグラに含める学者が多い。しかし、中四国産はアズマモグラとは別種の可能性があるため、県内産はコモグラ(西日本産小型アズマモグラ)としておく。

【県内での生息地域・生息環境】

1955年に出雲平野西部南端付近で収拾されたのが県内の初記録。その後、三瓶山北の原と江の川中流域西側付近で1カ所ずつ採集例がある。分布域の詳細は不明だが、本土側全域に分布している可能性がある。

【存続を脅かす原因】

生息地の開発。個体群の孤立・狭小化。農業等の体内蓄積も懸念される。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○		○	○			○	○	○											

コウモリ目（翼手目）キクガシラコウモリ科

キクガシラコウモリ

Rhinolophus ferrumequinum (Schreber, 1774)

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵1

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

現時点で絶滅の恐れは少ないが、生息洞の周辺環境及び洞内環境の変化または破壊・洞穴そのものの破壊等により激減する恐れがある。

【概要】

北海道中西部から屋久島まで分布。日本産の小翼手目としては大型で、翼を広げた長さは30cmほどになる。「短広翼型」コウモリのため体が大きいわりに小回りができ、狭い洞穴にでも入ることができる。日中は洞穴の天井などに後足で逆さにぶら下がって休息し、夜になると活動

する。森林内などを飛びながら夜行性の飛行性昆虫を捕食する。外気温が10℃以下になると冬眠する。1産1仔。小型の哺乳類としては異例に長寿で、野生で20年以上生存した例がある。

【県内での生息地域・生息環境】

県内全域に分布。海食洞や自然の岩穴、貯蔵穴、廃坑で休息・冬眠。

【存続を脅かす原因】

洞穴環境の変化や破壊、洞穴周辺の森林破壊等。生息洞穴への不用意な入洞。農業等化学物質の体内蓄積も懸念される。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域									
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	洞穴	森林	草原	農地	河川	湖沼	洞穴	森林	草原	農地	河川	湖沼	洞窟	林地	草地	砂浜	河口	海食洞
○	○	○	○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○			○	○				○

コウモリ目（翼手目）キクガシラコウモリ科

コキクガシラコウモリ

Rhinolophus cornutus Temminck, 1835

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

現時点で絶滅の恐れは少ないが、生息洞の周辺環境及び洞内環境の変化または破壊・洞穴そのものの破壊等により激減する恐れがある。

【概要】

日本固有種の可能性が高い。北海道西部から奄美群島まで分布。外観はキクガシラコウモリに似ているが、ずっと小型。「短広翼型」のため狭い洞穴に入ることができる。日中は廃坑や海食洞などの天井に後足で垂下して休息し、夜間に森林内を飛び回って、ユスリカやヤブカナ

どの非常に小さい飛行性昆虫を捕食する。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（西ノ島）を含む県内全域に分布。海食洞や自然の岩穴、貯蔵穴、廃坑などで休息・冬眠する。200頭以上の冬眠コロニーが見られる洞穴もある。

【存続を脅かす原因】

洞穴環境の変化や破壊、洞穴周辺の森林破壊等。生息洞穴への不用意な入洞。農薬等化学物質の体内蓄積も懸念される。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域										
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	洞穴	森林	草原	農地	河川	湖沼	洞穴	森林	草原	農地	河川	湖沼	洞穴	林地	草地	砂浜	河口	海食洞	
○	○	○	○	○	○			○	○	○				○	○	○				○	○					○

コウモリ目（翼手目）ヒナコウモリ科

モモジロコウモリ

Myotis macrodactylus (Temminck, 1840)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

現時点で絶滅の恐れは少ないが、生息洞の周辺環境・洞穴の破壊等により激減する恐れがある。1洞当たりの生息数はあまり多くないが、各地の廃坑や洞穴で見られ、目撃はそれほど困難ではない。

【概要】

北海道から奄美大島までと対馬、サハリン、ロシア沿海地方、朝鮮半島に分布。日中の休息や冬眠は、洞穴などで単独で行い、夜、森林内や林冠部などを飛び回って小型の昆虫類を捕食する。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を含む県全域に分布。海食洞、廃坑、利用されていないトンネルなど各地で見られるが、ふつう一度に見られるのは1～数頭程度である。繁殖期には50頭位のコロニーが見られることもある。

【存続を脅かす原因】

生息洞穴環境の変化や破壊、洞穴周辺の森林破壊等。生息洞穴への不用意な入洞。農薬等化学物質の体内蓄積も懸念される。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域										
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	洞穴	森林	草原	農地	河川	湖沼	洞穴	森林	草原	農地	河川	湖沼	洞穴	林地	草地	砂浜	河口	海食洞	
○	○	○	○	○	○			○	○	○				○	○	○				○	○					○

コウモリ目（翼手目）ヒナコウモリ科

ユビナガコウモリ

Miniopterus fuliginosus (Hodgson, 1835)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵1

【選定理由】

現時点で絶滅の恐れはないが、生息洞（特に冬眠洞と繁殖洞）及び森林など採食空間等の環境変化や破壊によって、激減する恐れがある。

【概要】

アフガニスタン・インド・中国などに分布。国内では本州・四国・九州・対馬・佐渡などに生息する。日本産のコウモリのうち最大の集団を形成する種で、冬眠時には数千頭、繁殖期には数万頭のコロニーを形成することがある。森林などの上を高速で飛行しながら飛行性昆虫

を捕食する。

【県内での生息地域・生息環境】

県内全域。停空飛行ができないため、比較的大きな洞穴を好む。廃坑や、夏には海食洞などで見られる。県東部海岸には、4～5万頭の繁殖コロニーが形成される海食洞がある。冬眠には別の洞穴が利用されている。

【存続を脅かす原因】

生息洞の環境変化と破壊及び洞穴周辺の生息環境の変化と破壊。繁殖洞や冬眠洞などへの不用意な入洞。農薬等化学物質の体内蓄積も懸念される。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域										
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	洞穴	森林	草原	農地	河川	湖沼	洞穴	森林	草原	農地	河川	湖沼	洞穴	林地	草地	砂浜	河口	海食洞	
○	○	○	○	○	○			○	○	○				○	○	○				○	○					○

コウモリ目（翼手目）ヒナコウモリ科

テングコウモリ

Murina leucogaster Milne-Edwards, 1872

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

もともと生息数が多くない。県内では冬眠洞が2～3カ所知られているのみで、1年間に1～5頭が目撃されている程度である。

【概要】

北海道・本州・四国・九州、サハリン、ロシア沿海地方、朝鮮半島に分布。日本産を亜種や別種として分ける研究者もいる。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を除く県内。現在、県中部の4カ所で生息が

確認されており、洞穴内で冬眠している個体が観察されている。出産や育児は樹洞で行われると思われるが、県内では報告例がない。森林内を飛翔しながら昆虫類を捕食し、日々の休息はおもに樹洞で行われるものと思われる。廃坑などの内壁のくぼみや発破の穴にもぐって冬眠していることがある。

【存続を脅かす原因】

休息や冬眠するための洞穴環境の変化と破壊、樹洞のある大径木が茂る森林の消失。周辺の森林環境の破壊。農薬等化学物質の体内蓄積も懸念される。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△	○	○		○				○				○									

コウモリ目（翼手目）ヒナコウモリ科

コテングコウモリ

Murina ussuriensis Ognev, 1913

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

過去、県内の数カ所で目撃例があるが、目撃個体数は少ない。

【概要】

外観はテングコウモリに似るが、ずっと小型。北海道から屋久島・隠岐諸島・対馬、サハリン、ロシア沿海地方、朝鮮半島に分布。日本産を亜種とする研究者もいる。休息や繁殖の場所として樹洞を利用し洞穴内には入らないが、山間部では、捕食のために民家や家畜舎に入ることがある。他県では、蔓に付いたままのクズなどの

枯れ葉にくるまって休眠していた例が報告されている。また、広島県八幡高原では、雪中で「冬眠」していたコテングコウモリが見つかった。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を含む県内の森林に生息。過去、隠岐（西ノ島）と三瓶山地域・匹見川中流域での生息確認がある。

【存続を脅かす原因】

休息と冬眠のための樹洞がある大径木が生育するような森林の破壊。農薬等化学物質の体内蓄積も懸念される。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△	○	○	○	○				○				○									

ネコ目（食肉目）イタチ科

ニホンイタチ

Mustela itatsi Temminck, 1844

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵1

【選定理由】

過去に比べて、生息地・個体数ともに減少している。

【概要】

日本固有種。本州・四国・九州・屋久島などに分布し、近年は北海道にも侵入。導入飼育されたチョウセンイタチが野生化し、おもに西日本で分布を広げており、ニホンイタチを駆逐していると言われているが詳細は不明。

【県内での生息地域・生息環境】

県内全域に分布。隠岐諸島は自然分布か否か不明。かつては、水田や池や川などの水辺周辺でよく目撃された。

近年は水田の減少や溜池の消失、河川環境の変化などによって生息環境が悪化している。県内でもチョウセンイタチは分布を広げて集落伝いに山間部にまで侵入しており、平野部ではニホンイタチがほとんど見られなくなっている。

【存続を脅かす原因】

水辺環境の変化と減少。チョウセンイタチとの競合。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	△		△	△	△		△	△	△	△	△	△	△					